



第101期 中間報告書

2018年4月1日から2018年9月30日まで



トップインタビュー

**基礎収益力を高め、さらなる
「進化」と「成長」を実現していきます。**

特集 社外取締役インタビュー

トピックス 当社オリジナルブランド『からだスイッチ』シリーズのご紹介



基礎収益力を高め、さらなる 「進化」と「成長」を実現していきます。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

また、相次ぐ自然災害により被災された皆様にお見舞い申し上げます。被災地が一日も早く復旧し、被災された方々の生活に平静が戻りますことをお祈りいたします。

2019年3月期第2四半期累計期間(2018年4月1日から2018年9月30日まで)の事業概況をご報告し、通期の見通しについてご説明させていただきます。

2018年11月

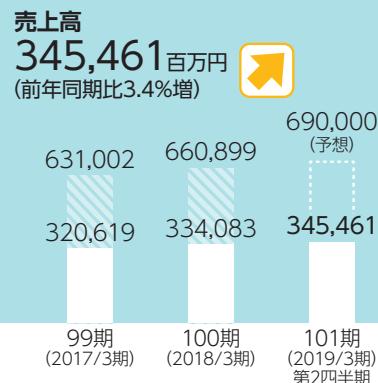
代表取締役社長
社長執行役員

岡本均

企業理念

常に時代の変化と要請を先取りし、
健康で豊かな食生活創りを通じて
消費者と社会に貢献します

連結決算ハイライト (単位:百万円)



当第2四半期までの取り組みと経営成績

食品流通業界では、消費者の生活防衛意識・節約志向が依然として強く、個人消費回復の手応えがつかめないなか、国内各地において多くの天災や不安定な天候に見舞われ被災地経済に大きな影響が出るなど、引き続き厳しい事業環境が続きました。

一方で、簡便性や健康志向、個食化といったニーズを捉えた商品は、消費者の支持を獲得し市場が成長するなど、少子高齢化や少人数世帯の増加に伴い個食化や多様化が一段と進んでいます。このような環境下では、売場提案や商品開発、そしてバリューチェーンの効率化を追求し、進化させることが必要だと考えております。

第2四半期までの営業状況は、スーパー、CVS、ドラッグストア等を中心とする組織小売業やEコマースなどとの取引深耕・拡大により「嗜好・飲料」を中心に売上高が増加しました。

その結果、連結業績は概ね期初の計画通りに進捗し、売上高3,454億61百万円(前年同期比3.4%増)、営業利益16億46百万円(同5.2%増)、経常利益20億67百万円(同6.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益14億円(同25.0%減)となりました。なお同純利益の減少は、前年同期に一過性の特別利益を計上した反動によるもので、実質的には増収・増益となり、基礎収益力は高まっています。

■第2四半期 ■通期

▶▶▶ 詳細はP7-8をご覧ください。

営業利益

1,646百万円
(前年同期比5.2%増)



経常利益

2,067百万円
(前年同期比6.8%増)



親会社株主に帰属する四半期純利益

1,400百万円
(前年同期比25.0%減)



「デジタルギフト」「ギフトカード」の需要拡大

重点分野の一つであるギフト分野では、「デジタルギフト」および「ギフトカード」の提案を強化しております。当社では2011年から「ギフトカード」の取り扱いをスタートしておりますが、スマートフォンが普及し、生活に溶け込んでいる現在、カードをデジタル化することで、発行側・利用側双方の利便性を高める「デジタルギフト」の需要が急速に拡大しています。

当社グループでは、特に需要が高まっている法人向けセールスプロモーション市場をターゲットに提案を推進しております。

また、この9月には、岩手県産ブランド肉・門崎熟成肉の専門店「格之進」の選べるギフトカード「格之進ギフトカード」の取り扱いを開始しました。高付加価値カードのラインアップを拡充するなど、新たな収益源獲得に向けさらなる拡大を進めてまいります。



格之進ギフトカード

「からだスイッチ」シリーズアイテム拡充、グループ会社の取り組み

商品開発における取り組みでは、当社オリジナルブランド「からだスイッチ」シリーズのラインアップを12アイテムに拡充し、当期から販売ルートを拡大しました。大人向け粉ミルク「おとなのミルク習慣プレミアム」や「7種の有機栽培オーガニック青汁」の2品の販売を新たに開始するとともに、ヘルス&ビューティ分野と連携した売場提案など、引き続き市場の開拓を進めていきます。 **Topics (P4)**

また、グループ会社の取り組みでは、株式会社アイ・エム・シーによる百貨店等のグロッサリー売り場の運営およびテナント・食品催事の企画運営事業が堅調に推移しています。運営店舗は23店舗となり、地域のお客様のニーズに応える品揃えで売上を伸ばし、着実に成長を続けております。

通期業績の見通しと配当について

先に述べました通り、卸の基本機能向上とローコストオペレーションの追求を通じて、基礎収益力は高まっております。第3四半期以降も、引き続き組織小売業との取引拡大および販路開拓によって、増収・増益基調を維持していくとともに、新規事業など、新しい収益源獲得に向けた取り組みを推進してまいります。

通期の連結業績については期初の計画値である、売上高6,900億円(前期比4.4%増)、営業利益46億円(同8.3%

増)、経常利益53億円(同5.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益36億円(同10.7%減)を見込んでいます。

なお当第2四半期末の配当は、予定通り1株当たり37円50銭とさせていただきます。期末配当予想の37円50銭と合わせて、年間配当額75円(前期同額)を計画しています。

当社グループは、3年目の折り返し地点を迎えた中期経営計画の重点戦略を着実に遂行するとともに、経営ビジョンで掲げている『価値』を追求し、『信頼』されるグッド・カンパニーをめざし、さらなる「進化」と「成長」を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年3月期(第101期) 連結業績予想

売上高	6,900億円
営業利益	46億円
経常利益	53億円
親会社株主に帰属する当期純利益	36億円

Topics トピックス

当社オリジナルブランド『からだスイッチ』シリーズのご紹介

当社は、2017年より『からだスイッチ』シリーズの商品販売を開始しています。『からだスイッチ』は、新しいライフスタイルのニーズにマッチした健康食品を提案する当社のオリジナルブランドです。健康食品分野において注目度の高いキーワードである「糖質オフ」や、不足しがちな栄養素(乳酸菌、食物繊維、たんぱく質等)の摂取が普段の食事に手軽に取り入れられるよう、商品開発にこだわっており、現在、健康に特化した商品を12品展開しております。今後に向けて、『からだスイッチ』シリーズ商品の販路拡大に取り組んでまいります。



～『からだスイッチ』コンセプト～

『からだスイッチ』シリーズの商品を通じて、美味しく最適な食事バランスを実現し、より健康に、いつまでも若々しく生活できるよう、ヘルシーなライフスタイルをご提案いたします

商品に関するお問い合わせ先／伊藤忠食品株式会社 0120-001-210
受付時間 9:00～17:00(土日祝日除く)



食ベマートでお買い求め頂けます。

伊藤忠食品 食ベマート

検索



社外取締役

橋本 健 Hashimoto Ken

略歴

1974年 4月	花王石鹼株式会社 (現花王株式会社)入社	2013年 3月	同社購買部門担当
1999年 11月	同社化成品事業部長	2014年 8月	株式会社吉川国工業所 顧問(現任)
2006年 3月	同社購買部門統括	2016年 6月	当社 社外取締役(現任)
2008年 6月	同社取締役執行役員	2017年 6月	タカラスタンダード株式会社 社外取締役(現任)
2012年 6月	同社取締役常務執行役員会計財務 部門担当(兼)情報システム部門担当		

これまでの経歴について

1974年に花王石鹼株式会社(現花王株式会社)に入社し、入社以降32年間はBtoBビジネスであるケミカル事業に携わり、界面活性剤、油脂製品、機能性ポリマーを様々な産業に販売する業務を担当しました。その後8年間は、同社購買部門に異動し、グローバル規模での直接材・間接材の調達に携わりました。退職までの最後の数年間は同部門に加え、会計財務、情報システムの担当役員に就き、新基幹系情報システム導入後の部門管理等を行いました。

伊藤忠食品の印象について

当社は、130年以上にわたって食文化への貢献を通じて、独自の企業風土を築き上げている会社であり、非常に堅実でメーカーとの信頼関係も強いという印象があります。

一方で、堅実さに加えて新しい事業等へ積極的に挑戦することも必要であると感じており、今後の利益ある成長に期待しています。

伊藤忠食品での社外取締役としての役割

社外取締役の役割は幾つかありますが、個社の個性に沿った社外取締役像がそれぞれあると考えています。当社においては、自社の事業内容をよく理解した上で、成長戦略の立案・実行のモニタリングに係わることが最も重要だと考えています。

また、当社では「『価値』を追求し、『信頼』されるグッド・カンパニーへ」という経営ビジョンを掲げていますが、実現していくためには「こたわる部分」と「変えなければならない部分」を明確にし、新しい価値創造をしていく必要があると感じています。

これを実行するためにも、これまでの経験を踏まえた意見や、時には異論を唱えることも社外取締役としての私の役割の一つだと思っています。

3年前に規定されたコーポレートガバナンス・コード(CGC)が今年改訂され、社外取締役の役割がより具体化してきていますが、今後も伊藤忠食品の社外取締役像を自分なりに追求することで、当社のさらなる発展に貢献していきたいと考えています。

これまでの経歴、当社の印象と社外取締役としての役割についてお伺いしました。

社外取締役

宮坂 泰行 Miyasaka Yasuyuki

略歴

1975年 11月	等松・青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)入所	2017年 7月	宮坂泰行公認会計士事務所所長(現任)
1980年 3月	公認会計士登録	2018年 6月	当社 社外取締役(現任)
1990年 6月	同法人パートナー	2018年 6月	参天製薬株式会社 社外監査役(現任)
2010年 10月	同法人リスク管理・審査室(IFRS)長		
2017年 6月	同法人退所		



これまでの経歴について

大学を卒業した1975年に等松・青木監査法人(現有限責任監査法人トーマツ)に入所し、公認会計士としての業務をスタートしました。以来、昨年6月に退所するまで41年余りにわたり一貫して上場企業等の会計監査他に従事しました。その間、1993年からデロイトのシンガポール事務所に4年間駐在し、トーマツでの最後の数年間は国際会計基準(IFRS)関連業務のリスク管理・審査室長を務めました。監査を担当した上場企業の中でも、日本たばこ産業株式会社(JT)がM&Aにより成長する中で会計処理の検討や会計監査を行ったこと、また2013年の株式会社日本取引所グループ発足時のアドバイスや上場後の監査に携わったことが印象に残っています。

伊藤忠食品の印象について

当社は、1886年の創業以来、130年を超える歴史のある会社であり、長年にわたり培ってきた卸機能をさらに磨き上げ、挑戦と

進化を続けることで経営ビジョンで掲げている『価値』を追求し、『信頼』されるグッド・カンパニーを目指しています。社外取締役に就任してまだ数ヶ月ですが、このような経営ビジョンのもと、様々な経営施策が推進されており、社員の皆さんが目標に向かって日々努力されていることが窺われます。経営姿勢として、コンプライアンスを重視しており、良識的な経営をされている会社との印象を持っています。

伊藤忠食品での社外取締役としての抱負

昨今、企業のガバナンスが叫ばれており、上場企業はコーポレートガバナンス・コード(CGC)への対応、説明が求められています。長年にわたり会計監査を通じて数多くの企業を見てきた経験・知見を活かし、社外取締役としての外部視点から、会社のガバナンスをモニタリングし、CGCで標榜されている「攻めのガバナンス」に資するよう、多角的、多面的な観点から助言・コメントをすることで当社の企業価値向上に貢献できればと考えております。

連結決算の概要

▶ 連結損益計算書の概要 (単位: 百万円)

売上高

345,461 百万円

(前年同期比3.4%増)

組織小売業との取引拡大や販路開拓などにより、前年同期比で113億77百万円の増加となりました。

営業利益

1,646 百万円

(前年同期比5.2%増)

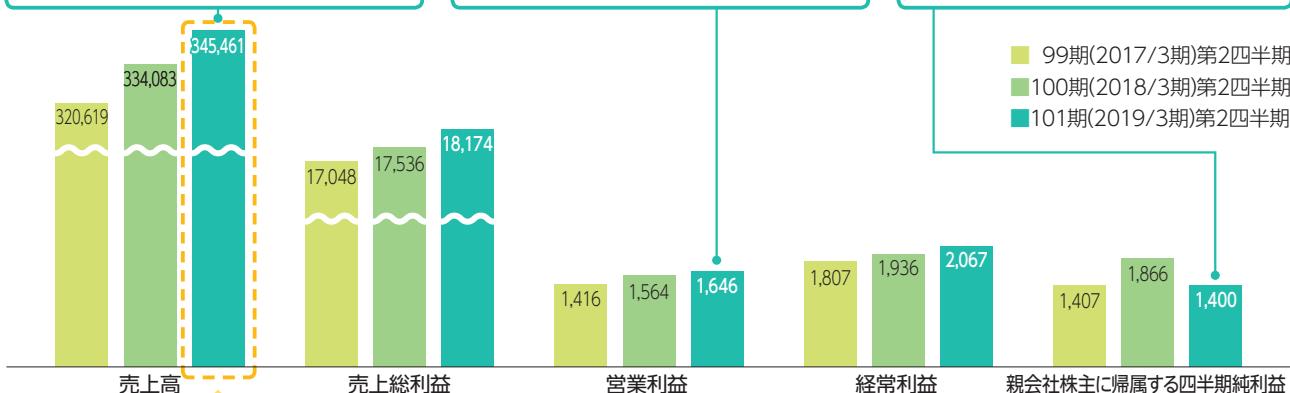
取引拡大により物流費など販売費及び一般管理費が増加したものの、増収による売上総利益額の増加により、前年同期比で82百万円の増加となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益

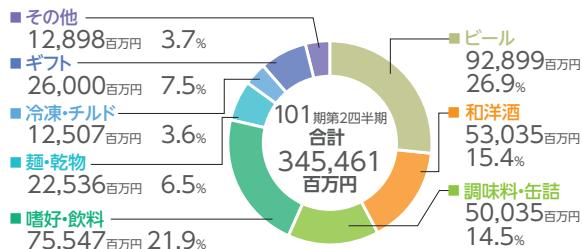
1,400 百万円

(前年同期比25.0%減)

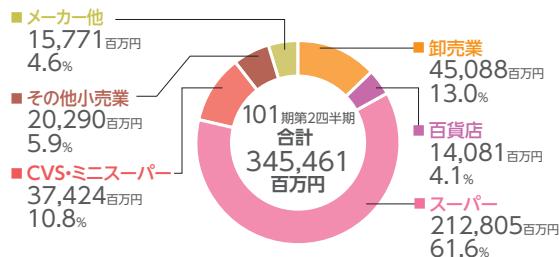
前第2四半期連結累計期間に取引先との経費負担に関する一時的な調整金を特別利益に計上したことから、前年同期比で4億66百万円の減少となりました。



商品分類別 売上高構成比

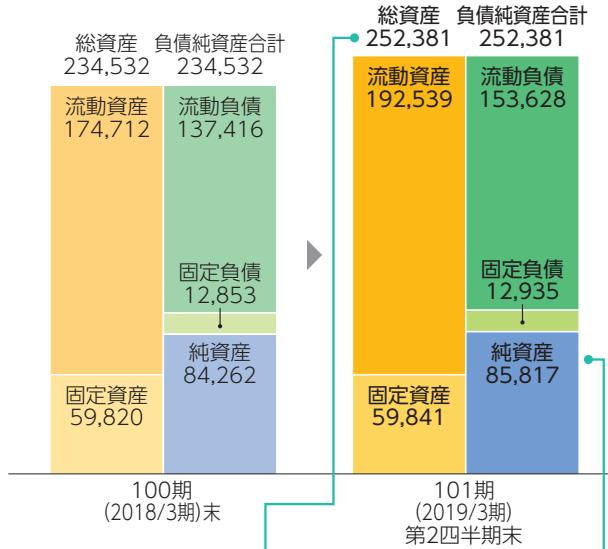


業態別 売上高構成比



(注)「ビール」には、発泡酒、ビール風アルコール飲料(第3のビール)の売上高を含んでおります。

▶ 資産、負債及び純資産の状況 (単位:百万円)



総資産

252,381
百万円

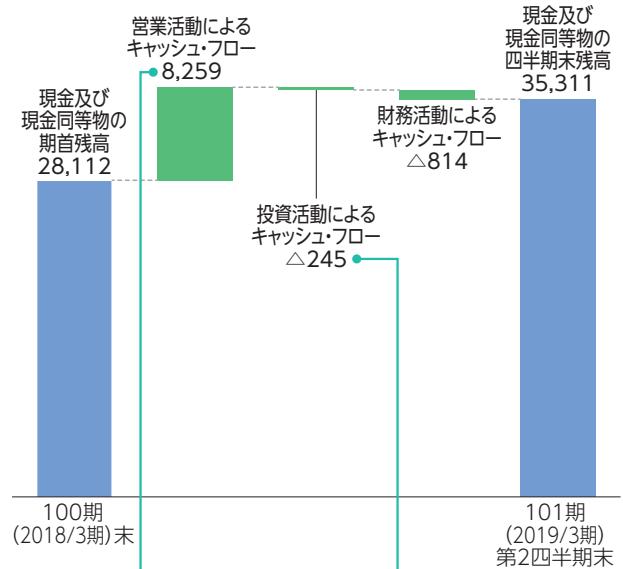
総資産は、2,523億81百万円となり、前期末に比べ178億49百万円の増加となりました。これは、季節変動要因により売上債権が53億62百万円、未収入金が39億24百万円増加したこと及び関係会社預け金が66億円増加したことなどによるものであります。

純資産

85,817
百万円

純資産は、858億17百万円となり、前期末に比べ15億54百万円の増加となりました。これは、利益剰余金が増加したことなどによるものであります。

▶ 連結キャッシュ・フローの状況 (単位:百万円)



営業活動による キャッシュ・フロー

8,259 百万円
の収入

営業活動によるキャッシュ・フローは、82億59百万円の収入となり、前年同期と比べ34億60百万円の減少となりました。これは、売上債権、未収入金及び仕入債務の増減により26億44百万円減少したことなどによるものであります。

投資活動による キャッシュ・フロー

245 百万円
の支出

投資活動によるキャッシュ・フローは、2億45百万円の支出となり、前年同期と比べ8億円の減少となりました。これは、有形固定資産の売却による収入が11億14百万円減少したことなどによるものであります。

(2018年9月30日現在)

商号 伊藤忠食品株式会社
 創業年月日 1886年2月11日(明治19年2月11日)
 設立年月日 1918年11月29日(大正7年11月29日)
 資本金 4,923,464,500円
 従業員数 連結1,149名 個別807名
 事業内容 酒類・食品の卸売およびそれに伴う商品の保管、
 運送ならびに各種商品の情報提供、商品流通に関する
 マーチャンダイジング等を主とした事業活動を展開。
 本店所在地 大阪市中央区城見2-2-22
 大阪本社
 〒540-8522 大阪市中央区城見2-2-22
 電話(06)6947-9811
 東京本社
 〒107-8450 東京都港区元赤坂1-2-7
 電話(03)5411-8511

役員
 代表取締役社長・社長執行役員 岡本 均 常勤監査役 姫野 彰
 取締役・相談役 濱口 泰三 監査役(非常勤) 増岡 研介
 取締役・専務執行役員 大釜 賢一 監査役(非常勤) 萩原 武
 取締役・専務執行役員 三浦 浩一 監査役(非常勤) 太田 有哉
 取締役・執行役員 川口 浩一 常務執行役員 酒井 健雄
 取締役・執行役員 大崎 剛 執行役員 鈴木 昌
 取締役(非常勤) 橋本 健 執行役員 角田 憲治
 取締役(非常勤) 宮坂 泰行 執行役員 松本 正幹
 取締役(非常勤) 細見 研介 執行役員 河原 光男
 執行役員 魚住 直之
 執行役員 山村 芳幸

子会社・関連会社

■連結子会社 ■非連結子会社 ■関連会社

卸売業／■(株)スハラ食品 ■(株)中部メイカン
 小売業／■(株)宝来商店

物流管理・運送業／■新日本流通サービス(株)
 サービス業／■ISC ビジネスサポート(株) ■(株)アイ・エム・シー

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社

特別口座の
 口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

公告方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

* 公告掲載の当社ホームページアドレス

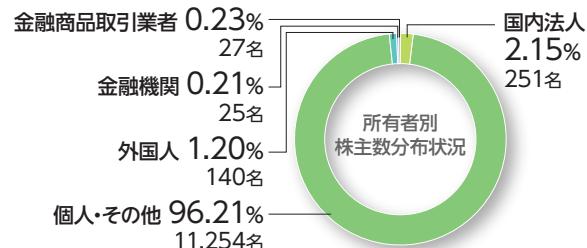
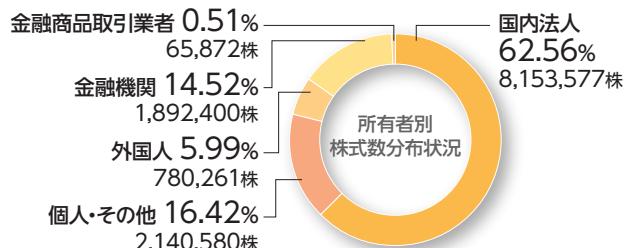
<https://www.itochu-shokuhin.com/>

単元株式数 100株

証券コード 2692

(2018年9月30日現在)

発行可能株式総数 40,000,000株
 発行済株式の総数 13,032,690株
 株主数 11,697名



大株主

株主名	所有株式数(株)	所有株式数比率(%)
伊藤忠商事(株)	6,620,316	50.79
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (三井住友信託銀行再信託分・アサヒビール(株)退職給付信託口)	815,000	6.25
味の素(株)	339,129	2.60
アサヒビール(株)	296,500	2.27
みずほ信託銀行(株)退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託銀行(株)	249,300	1.91
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	227,600	1.74
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	153,000	1.17
伊藤忠食品 従業員持株会	130,300	0.99
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	93,700	0.71
はごろもフーズ(株)	87,100	0.66

(注) 1 上記のほか、自己株式が345,337株あります。

- 2 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(三井住友信託銀行再信託分・アサヒビール(株)退職給付信託口)の所有株式は、アサヒビール(株)が所有していた当社株式を三井住友信託銀行(株)に信託したものが、日本トラスティ・サービス信託銀行(株)に再信託されたもので、議決権はアサヒビール(株)に留保されております。
- 3 みずほ信託銀行(株)退職給付信託みずほ銀行口再信託受託者資産管理サービス信託銀行(株)の所有株式は、(株)みずほ銀行が所有していた当社株式をみずほ信託銀行(株)に信託したものが、資産管理サービス信託銀行(株)に再信託されたもので、議決権は(株)みずほ銀行に留保されております。

ご案内

住所変更、
単元未満株式の
買取等のお申出先

証券会社に口座のある株主様 ▶ 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

証券会社に口座がないため
特別口座を開設されました株主様 ▶ 特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式
会社にお申出ください。

「配当金のお支払い」
について

配当金領収証にてお受取りの
株主様 ▶ 「支払通知書」に替えて「配当金計算書」を同封いたして
おります。

口座振込を指定されている株主様 ▶ 配当金支払いの際送付している「配当金計算書」が「支
払通知書」となります。

「配当金計算書」について

※確定申告をなされる株主様は大切に保管してください。

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」
を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付書類としてご使用いただくことができます。

未払配当金の支払いのお申出先

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株主優待のご案内

Choice de Choice

Free Style Gift

3,000円
相当

[ちよいすdeチョイス]

厳選された約50種類の商品からお好きな商品をお選びいただけるギフトです。

当社では、毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された単元株式数(100株)以上保有の株主様1名につき1口、当社オリジナルギフト商品をご賞味いただける株主優待を行っております。優待のカタログの発送は6月を予定しております。

※カタログ掲載商品は変更となる場合があります。



こだわりのウインナー



氷温熟成西京漬け詰合せ



熊野古道を訪ねて
はちみつ入り味梅



揖保乃糸特級品



十勝アイスマルク



芦屋シューアイス



コーカサスピュアハニー
リコリス

「商業高校フードグランプリ」
出場商品も優待に!!

堺市立堺高等学校
べっぴんさん甘酒
ノンオイルドレッシング



Choice de Choice が届くまで

[ちよいすdeチョイス]

1 11月末

中間報告書(本紙)ご送付
※中間期は、株主優待を実施
していません。

2 3月末

株主優待権利確定

3 6月下旬頃

株主総会后、決議通知に優
待のカタログとハガキを同
封じで郵送いたします。

4 9月30日までに
ご投函ください。

カタログより優待商品をお選
びいただき、ハガキを返信して
いただきます。

5 お届け

お選びいただいた優待商品
がお手元に届きます。

ISC 伊藤忠食品株式会社

- 大阪本社 〒540-8522 大阪市中央区城見2-2-22 電話 (06)6947-9811
- 東京本社 〒107-8450 東京都港区元赤坂1-2-7 電話 (03)5411-8511
- インターネットホームページURL <https://www.itochu-shokuhin.com/>

UD
FONT



本報告書は、環境保全のため、FSC®認証紙を使用して
植物油インクで印刷しています。